



北の商都に

東北以北 初

ビジネススクール誕生

この春から始まる「小樽商科大学ビジネススクール(専門職大学院)」は従来からの大学院とどのように違うのでしょうか。また、どんな内容なのでしょう。本学の西山教授が、分かりやすくご説明します。

「商大」と「ビジネススクール」

今春、「商大」に「ビジネススクール」が誕生します。

公式には『小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻』とナガナガシイ名称になります。『要するに大学院なんでしょう?』と聞きたくなりますが、制度的には全く新しい「専門職大学院」です。世間では「法科大学院」がよく話題になりますね。ロースクールとも呼んでいます。ビジネススクールもこれと同じ仲間、両方とも「高度職業人の養成」が目的です。一口にいうと、ハイレベルの実践教育に最大の力点が置かれるわけです。

「MBA」という学位を聞いたことがある人も多いと思います。海外のビジネススクールを卒業すると得られますが、これは“Master of Business Administration”ですから、日本語で言えば「経営学修士」にあたります。この「MBA」という学位は、単に学位であることに加えて、企業を経営する知識と技術を身につけているかどうかを判別する資格としても機能している面があります。海外の一流企業でCEO(=最高経営責任者)やCFO(=最高財務責任者)の職にある人たちは、ほとんどMBAを持っている、雑誌記事などをパラパラめくるだけでそのことが分かるはず。一体なぜビジネススクールなのでしょう?

ビジネススクールは、20世紀の初めにアメリカで誕生し、その成功を見て第二次世界大戦後にはヨーロッパでも普及してきた比較的新しい教育システムです。そのどこが新しいのか、どこが普通の大学院と違うのか、そこから始めましょう。

逆転の教育 個別から一般へ

まず教え方が違います。私は商大では統計学の授業を主に担当してきましたが、統計学を理解するにはどうしても確率がいります、確率論を理解するにはどうしても最低限の数学をマスターしておかないといけない、だから入学試験では数学を選択してほしい。大体こんな具合に、大学の勉強は基礎を最初に徹底的に理解して、その後に実践的なことを学ぶわけです。もっと難しくいうと「一般理論」とか「原理」を知れば、あらゆる個別の問題は自然にわかるはずだ、そんな発想で授業を進めることが多いのです。

ビジネススクールは誤解を恐れずに言うと「逆転の教育法」をとる。まず個別の具体的なケースを討論して、どんなことが問題になりうるか、そこから始めます。問題が出てくると、答えがほしい、誰かがもう考えているはずだ、こんなことが分かっているのではないか、どんな理論があれば

**ビジネス
スクールは
実践的な
教育の場**

(写真は平成15年本学大学院の授業風景)

教官による説明



グループ・ディスカッション



グループ

